

University of Shizuoka Magazine

 静岡県立大学広報誌

No.136

2018. February

# はばたき

特集

活躍するゼミ生・ゼミ活動

静岡県立大学

おおぞら基金

大学ブランド・イメージ調査(東海・北陸)

「地域貢献」第1位



## CONTENTS

- p01 **活躍するゼミ生・ゼミ活動**
- p05 **おおぞら基金のお知らせ**
- p06 **CAMPUS TOPICS**  
・ 大学ブランド・イメージ調査で「地域貢献」第1位  
・ 観光人材育成講座開催  
・ 剣祭・橘花祭2017開催レポート  
・ リレー・フォー・ライフ・ジャパン2017静岡  
・ 欧州議会副議長イオアン・パシュク氏講演会  
・ シンポジウム「君主制の現在・過去・未来」  
・ グローバル地域センターによるセミナー開催  
・ 大学発ベンチャーNPOの誕生と各受賞報告  
・ 連続公開セミナー「逆流し始めたグローバリゼーション」  
・ 公開授業 演劇×音楽で蘇る「羽衣」  
・ タマサート大学医学部との学部間協定  
・ 韓国延辺大学訪問記
- p13 **静岡県立大学創立30周年記念事業**
- p14 **キャリア支援だより**  
**茶学総合研究センター ティーカフェ**
- p15 **研究室訪問**  
・ 看護学部 青木研究室
- p17 **活躍する卒業生**  
・ 薬学部／薬食生命科学総合学府
- p18 **産学民官連携**
- p19 **はばたき寄金からのお知らせ**
- p20 **図書館だより**  
・ 小鹿・草薙図書館／私の一冊の本
- p21 **奨学金授与式**
- p22 **Information**  
・ 受賞/教員人事  
・ 学長表彰  
・ おおぞら基金寄付ご芳名



草薙図書館にて

# 活躍する



# ゼミ生・ゼミ活動

本学には、学生が自ら行動力や発想力を発揮し、地域社会や一般企業への貢献活動に積極的に取り組むゼミや研究室が数多く存在します。また、将来になりたい姿を見据えて地道に勉学に打ち込み、難関資格試験等に挑戦するなど、後輩の学生たちの目標となるような結果を出す学生もいます。今回は、そうしたゼミ活動やゼミに所属する学生に焦点を当てて紹介します。

## 経営情報学部 岩崎ゼミ生考案のAGO-MINが商品化

経営情報学部の岩崎邦彦教授ゼミの学生が考案した、仮眠用あごのせ枕「AGO-MIN」がこのほど商品化されました。



「AGO-MIN」は、あごの下に挟むことによって、電車などでのうたたねの際に首の安定性が増し、揺れる車内でもリラックスして休むことができる携帯用小型枕です。「電車のオアシス」となることをコンセプトに、主に通学、通勤する女性をターゲットに開発されました。「電車内で

上向きで寝たら恥ずかしい、下向きで寝ると首が痛くなる。」という企画メンバーの村上千恵さん（4年）の思いを企画に結び付け、昨年2月に開催された第15回SOHOしずおかビジネスプランコンテスト最終審査会で、学生部門の最優秀賞に相当するヤングビジネス賞を見事受賞しました。

コンテスト途中審査の段階で、静岡信用金庫からウレタン加工業の富士ゴム産業株式会社（静岡市清水区）を紹介され、最終審査では既に商品化が決定していた「AGO-MIN」。人によって首の長さや好みも違うためサイズ一つ決めるのにも苦労したそうですが、完成した商品は温かみのあるクリーム色で落下防止用クリップ付き、ウエットティッシュで拭けるよう表面は柔らかな合皮製

と、様々な気配りがされています。

「県大に通う学生は電車通学生が多いと思いますが、AGO-MINを使って電車の中ではゆっくり休んで、学校では思いっきり活動してください。」と企画メンバーの鈴木麻裕さん（4年）は話しています。「いつもより上質なうたたね」を提供する「AGO-MIN」は、富士ゴム産業株式会社のホームページで1個1,728円（税込）で販売しています。



AGO-MINの使い方を説明する鈴木さん(右)と村上さん(左)

## 経営情報学部 上野ゼミの学生が公認会計士試験に現役合格

経営情報学部上野雄史准教授ゼミ所属の平岡望さん（4年）が、今年度実施された公認会計士試験に見事合格しました。公認会計士試験は、毎年の合格率が10%台（平成29年度の合格率は11.2%）と国家試験の中でも難関試験の1つです。同試験に学部在学中に現役合格したのは上野ゼミでは初めてで、記録に残っている限りでは静岡県立大学で初めての快挙です。

平岡さんは2年生の冬に日商簿記1級試験に合格し、それをきっかけに職業会計人を目指して公認会計

士試験に挑戦しました。「試験には合格したが、これからもっと勉強を続けなければならない、喜んでばかりいられないという気持ちです。試験直前の8か月間は、1日10時間以上の勉強をしましたが、公認会計士試験は勉強しただけ結果が出るため取り組みが良かったです。」と合格の喜びを語ってくれました。

平岡さんは、卒業後は静岡市内の監査法人に就職し、3年間実務経験を積んだ後、資格取得のための修了審査に臨む予定です。



合格した平岡さん

## 国際関係学部 細川ゼミ生が 「焼津やいちゃんLINEスタンプ」を共同制作

国際関係学部・細川光洋教授のゼミが、小泉八雲を活かした焼津市の活性化に取り組む「焼津&八雲YYプロジェクト」の一環として、このほど、焼津市公認マスコットキャラクター「やいちゃん」のLINEスタンプ制作に協力しました。

細川ゼミの学生たちは、八雲にちなんだ妖怪をキュートに描き、やいちゃんとコラボさせたデザイン等を考案。学生が提案したうち10個のデザインが、今回販売されるLINEスタンプに採用されました。

8月7日には、焼津市役所において、焼津市役所の若手職員と同市出身のイラストレーター徳田有希氏とともに、ゼミ生6人が発表会に臨みました。発表会では、澤野華世子さん（4年）、榛葉佳奈さん（3年）が、おすすめのスタンプ、YYプロジェクトの活動などを紹介しました。

「やいちゃん公式LINEスタンプ」は計40種類で、LINEスタンプショップで販売しています。



完成したスタンプを見るやいちゃんと学生たち(左端は徳田有希氏)

## 国際関係学部 湖中ゼミ生による Table For Two (TFT) ランチが学内販売1万食達成



TFTメニューの購入呼びかけを行う湖中ゼミ生

国際関係学部湖中真哉教授のゼミと薬食生命科学総合学府フードマネジメント研究室のコラボ企画、Table For Twoランチが、2017年度後期に学内累計販売1万食を達成しました。

「Table For Two (2人の食卓)」は、先進国の私たちと開発途上国の子どもたちが食事を分かち合うことでお互いの問題（肥満と貧困）を解決することを目標にした取り組みです。学内では、前期、8月のオー

ブンキャンパス、後期の3回、学生ホール食堂で各4～5日間提供されています。対象となるメニューを購入すると、1食につき20円の寄付金が、Table For Twoを通じて開発途上国の子どもの学校給食になります（20円は給食1食分の金額）。

湖中ゼミでは2009年からTFTランチの学内での販売を行ってきました。ゼミ生は、毎期の実施ごと、メニューの検討、食堂との打ち合わせ、広報ポスターの作成、店頭での購入呼びかけなどを行います。2017年後期には、新メニュー「あんかけチャーハン」をフードマネジメント研究室と一緒に考案、販売にこぎ着けました。ゼミ生の中村航大さん（3年）は「店頭での呼びかけでは、TFTの良さを伝える難しさを実感した。カロリーや栄養

価が配慮されたヘルシーなTFTメニューは、学生にはボリュームが足りないと思われる場合もあり両立に苦労がある」と語り、村上依落さん（3年）は「販売1万食を達成したが、学内でのTFTの知名度はまだまだ。来年度は毎回完売することを目指して、販売曜日の設定など工夫していきたい」と決意を述べてくれました。



2017年新メニュー「あんかけチャーハン」

# 「静岡県立大学おおぞら基金」を設置いたしました。

～ごあいさつ～

静岡県立大学及び同短期大学部は、1987（昭和62）年に旧静岡薬科大学、旧静岡女子大学及び旧静岡女子短期大学を統合し、2017（平成29）年に創立30周年を迎えました。また、1916（大正5）年の薬学部の源流となる静岡女子薬学校の開設からは100年を超える歴史を刻んでまいりました。

この間、公立大学法人への移行、大学院改革などを通して、教育研究の向上を図るとともに、2014（平成26）年度には、「ふじのくに「からだ・こころ・地域」の健康を担う人材育成拠点」という本学の事業が文部科学省の「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」に採択され

るなど、地域社会と一体になって課題解決に取り組んでおります。グローバル化対応として、英語学習の強化を図り、観光マネジメントを核とする教育の導入に向けた準備も進めております。

このたび、本学では、「地域をつくる、未来をつくる」というモットーの実現に向けて、これまで以上に人材の育成を進めるため、学生支援、教育研究環境の一層の充実を目的とする「静岡県立大学おおぞら基金」を設置いたしました。

つきましては、県内外の多くの皆様に、本学の取組を温かく見守っていただきますとともに、本基金の趣旨について格別のご理解の上、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



静岡県立大学  
静岡県立大学短期大学部  
学長 鬼頭 宏

## ご寄附のお願い

皆様からお寄せいただいたご寄附は、本学の学生が、世界にはばたく人材となるように育成するため、また、本学が教育や研究を通じて地域貢献を進めるために活用させていただきます。

大学の支援	<ul style="list-style-type: none"><li>●教育研究活動に要する経費 (国内外からの研究者の招へい、教員・学生の研究プロジェクトの推進、図書館機能の充実 等)</li><li>●地域貢献活動に要する経費 (地域をフィールドとした教育・研究の推進、学生が行う地域貢献活動の支援 等)</li><li>●国際交流活動に要する経費 (本学への留学生の生活支援・生活環境の整備 等)</li><li>●その他大学の運営に要する経費に活用させていただきます。</li></ul>
学生の支援 (修学支援事業を除く)	学生の留学や学習支援等に要する経費に活用させていただきます。
学生の 修学支援事業	経済的理由により修学に困難がある学生に対する支援に活用させていただきます。

### 寄附の お申込方法

本学指定の払込取扱票により、郵便局及びゆうちょ銀行ATMよりお振込いただく場合は手数料は本学負担。  
(郵便局及びゆうちょ銀行に備え付けの払込取扱票による場合は、恐縮ですが手数料をご負担ください。)

個人様 1口 5,000円から  
法人様 1口あたりの金額設定はありません  
口座記号番号 00820-2-154381  
加入者名 静岡県公立大学法人

### お問合せ先

〒422-8526 静岡市駿河区谷田52-1  
静岡県公立大学法人 静岡県立大学 教育研究推進部 広報・企画室  
TEL.054-264-5103 FAX.054-264-5099

## 「大学ブランド・イメージ調査」(東海・北陸)で 本学が「地域貢献」第1位

株式会社日経BPコンサルティングによる「大学ブランド・イメージ調査2017-2018」の調査結果が発表され、北陸・東海地区の調査対象65校中、本学が「地域貢献」イメージで第1位を獲得しました。

本調査では、49項目あるブランド・イメージを、因子分析によって、関連性の高いイメージ群6つにグループ分けし、そのうちの一つ「地域貢献」因子で本学が1位となりました。

本学は、文部科学省の平成26年度「地(知)の拠点整備事業」に採択され、地域と大学の橋渡しを担う事業統括機関「ふじのくに」みらい共育センターを設置し、静岡の文化や歴史、産業等を学ぶ「しずおか学」科目群を全学必修科目として整備するなど、学生が地域について学び、考え、発表する機会を設けてきたことが評価につながりました。

「大学ブランド・イメージ調査」は、全国の主要大学計455校の「大学ブランド力」算出を目的としたインターネット調査で、ビジネスパーソンや中学生以上の子どもがいる父母、教育関連従事者を対象に行われています。



### ■ 観光人材育成講座開催

本学では、平成31年度に観光に関する教育課程を設置するための準備を進めています。このため、今年度は、高校生や教員、観光に関連する仕事に従事されている方などに、そこでの教育に触れていただくため、「観光人材育成講座」(全3回)を開催しています。

第1回は、平成29年10月28日(土)に、沼津市で、株式会社ジェイティービーの北上真一氏に、「「誰に」・「いつ」観光に来てもらえるか?～最盛期、閑散期にすべきこと、やらないこと～」をテーマに講演いただきました。

講演では、インターネットの普及等による旅行形態の変化や事前決済プランの導入が今後の課題であること等が紹介され、質疑応答では高校生からの質問に北上氏が丁寧にお答えされておりました。

第2回は、平成29年12月9日(土)に、静岡市で、岐阜県高山市長の國島芳明氏に、「地方都市のインバウンドへの挑戦



講座の様子

～人口の5倍以上の外国人観光客が宿泊するワケ～」をテーマに講演いただきました。

講演では、高山市が、人口減少、地域経済の縮小という課題に対し、30年ほど前からインバウンド観光で訪日する外国人の誘客に取り組んできていること、この取り組みでは、地域に対する誇り、不安のない生活、歴史創生が大事であ

ることなどが紹介され、ユーモアを交えた説明に参加者の多くが引きつけられていました。

第3回は、平成30年2月24日に、B-nest静岡市産学交流センターで、株式会社ホテルニューアワジ代表取締役社長の木下学氏に「ローカル(地域)な魅力をみがき 世界をもてなす」をテーマに講演いただきました。

## ■ 剣祭・橘花祭2017開催レポート

### 剣祭

10月28日(土)29日(日)の2日間に渡り、草薙キャンパスでは第31回剣祭を開催しました。今年のテーマ「Story」には、この剣祭を通して皆さんとともにたくさんの「Story」を作っていきたいという思いが込められています。模擬店、クラブ・サークルによるイベント、ミス&ミスターコンテストやお化け屋敷といった大人気の企画はもちろん、キャリア支援センターによるOG・OB懇談会、研究室開放、模擬授業など、大学ならではの企画も開催されました。今年は台風接近により、プログラムを一部変更するなど、ご来場の方々にはご迷惑をおかけしました。あいにくのお天気でしたが、多くの方にご来場いただき、本学を身近に感じていただける場となりました。



剣祭:小講堂での発表

### 橘花祭

11月11日(土)12日(日)の2日間、晴天の下で短期大学の第21回橘花祭が小鹿キャンパスで開催されました。今年のテーマは『WORLD』。学生達の「伝統ある大学祭を築くため、新たな世界へ踏み込みたい」という思いが込められています。

毎年恒例のミスコンテストに加え、男子学生が増えた今年度はミスターコンテストも開催されました。また数年ぶりに芸能人を招待するなど、様々なイベントが行われたことで、例年以上の盛り上がりとなりました。各学科専攻の特色溢れる学科展示には、近隣の方や小さなお子様、高校生等に多数ご来場いただきました。橘花祭を通して、本学をより親しく感じていただけたと思います。



橘花祭:模擬店(校内)の様子

## ■ リレー・フォー・ライフ・ジャパン2017静岡 ―勇気は今、光になる―

平成29年9月9日(土)10日(日)、がん患者・家族支援チャリティイベント「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2017静岡」が本学との共催のもと芝生園地で開催されました。昨年の大会終了後、大学生、大学職員、医療従事者、サバイバー(がん患者)、一般の方々で構成された実行委員会が発足し、1年間にわたり準備を重ねてきました。今年で5回目となった大会には、28チーム(県大関係2チーム)が参加し、おおよそ100人のサバイバーを含む総勢1700人が集い、本学からも150人を超す学生、教職員が参加しました。更に、今年から草薙地区で活動している草薙カルテッドもチーム参加しました。

青空のもと、開会式では有度幼稚園児が元気いっばいの踊りと歌を披露し、本学の鬼頭学長及び合田「ふじのくに」みらい共育センター長の開会の挨拶に続き、参加者の大きな拍手の中、吹奏曲に合わせてサバイバーズラップがスタート。続いて参加チームの紹介が行われ、リレーウォークを開始しました。総勢28チームがそれぞれ

れの思いを乗せたタスキを繋ぎました。

ステージでは吹奏楽やダンス、ジャグリングなどのパフォーマンスの他、サバイバーズトークで、がんの体験談を語っていただきました。テント内では趣向を凝らしたゲームや募金活動、更には本学の特徴を活かした栄養士と学ぶサバイバーズサロンも人気でした。



チーム草薙カルテッドの参加者

夕方には多くの思いが綴られた1500を越すルミナリエに灯が灯り、会場の中央には「HOPE」の文字がくっきり映し出され、ステージ上では参加チームの代表者一人一人が詩を朗読し、天国に旅立った仲間を偲ぶとともにがんを負けない社会を築く大切さを参加者一同が共有しました。静

かになった深夜も、チームテント内で参加者同士が語り合い、リレーをつなぐ人々がゆっくりと歩き続けていました。

翌日の日曜日にも快晴に恵まれ、散歩を日課としている近隣の方々も会場に集い、予定していたパフォーマンスも滞りなく進み、最後の一周は参加者全員で歩き、無事2日間の日程を終了しました。

なお、この2日間の様子は経営情報学部の渡邊貴之先生等の協力により、県大テレビで紹介されました。

実行委員長 若林敬二  
(食品環境研究センター長)



ルミナリエにより映し出された「HOPE」

## ■ 欧州議会副議長イオアン・ミルチャ・パシュク氏による講演会

日本政府の秋の叙勲で旭日重光章を受章されたイオアン・ミルチャ・パシュク欧州議会副議長が、11月8日に本学を訪れ、広域ヨーロッパ研究センター主催の特別講演で「日本・EU経済連携協定(EPA)と戦略連携交渉(SPA)の現状と意義」と題して講演くださいました。

パシュク氏は、日本とEUは経済面のみならず、政治・安全保障面でも

協力関係を深めてきたが、「アメリカ第一主義」を掲げるトランプ政権の登場によってこの傾向にますます拍車がかかっているとして、強いEUと強い日本が平和と繁栄とルール・ベースの国際秩序作りに向けて協力していく必要性を強調されました。およそ100名の学生と教員が出席し、積極的に質問する学生が次々と現れる程、インパクトの強い特別講演でした。



イオアン・ミルチャ・パシュク欧州議会副議長のご講演



写真は、旭日重光章の勲章を手にするパシュク欧州議会副議長(中央)と六鹿教授(国際関係学研究所・広域ヨーロッパ研究センター長)を囲む参加学生たち。桐の花葉の下に、日章を中心に光線(旭光)を配した勲章を全員に見せてくださいました。

## ■ 広域ヨーロッパ研究センター主催シンポジウム

11月14日、広域ヨーロッパ研究センター主催シンポジウム「君主制の現在・過去・未来 一生前退位を日欧比較の視点で考える」が開催されました。2019年春に天皇が退位することが決まった状況のなかで、外部の専門家二人による基調報告を中心に、日本の天皇というシステムの特徴を、歴史学と国際比較の両方の視点で考察するシンポジウムです。まず日本史の視点では、日本近現代史が専門の黒沢文貴東京女子大学教授が歴史を遡って天皇の正統性形成過程を検証し、現状と将来の問題点についても解説しました。ついで国際比較の視点では国際政治が専門の君塚直隆関東学院大学教授が、この100年の間に数が激減している世界の君主国とりわけヨーロッパの状況を

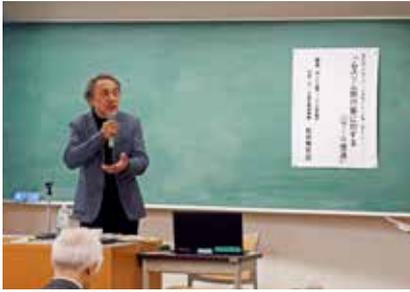
俯瞰し、今後も存続が可能な君主制の将来像について熱く語りました。休憩をはさんで本学の栗田和典教授(イギリス史)と森山優教授(日本現代史)がそれぞれ専門の立場からコメントし、引き続き剣持久木教授(フランス現代史)の司会のもと、会場からの質問も交えたディスカッションを行いました。とりわけ宮

内庁が果たすべき役割や女性天皇の是非などについて、国際比較の視点での活発な議論が展開されました。およそ80名の学生と教職員が参加し、知っているようで実はよく知らない「天皇」という制度を考えるヒントにあふれたシンポジウムになりました。



本学の栗田教授、森山教授を交えてのディスカッション

## ■ グローバル地域センターが「ムスリムツーリズム」「中国のソフトパワー」についてセミナーを開催



松井秀司氏による講演

グローバル地域センター「アジアの消費行動の多様性」研究チームでは、学内において、県民向けの公開セミナーを開催しました。

12月18日開催の「ムスリム旅行者のハラール接遇」では、観光業関係者や本学学生など約70名が参加しました。近年、イスラーム圏からの旅行者を対象としたツーリズム振興が重要課題となっています。今回は、国内

のムスリムツーリズムの先駆けである株式会社ミヤコ国際観光代表の松井秀司氏をお招きし、ハラール接遇の基本的な考え方や留意点の解説及び実務経験に基づいた具体的な事例紹介をしていただきました。ムスリム対応には、知識としての理解だけでなく、ムスリムを尊重する思いやりの心が大切であると講演され、意見交換も活発に行われました。

12月20日開催の「在アメリカ華人と中国のソフト・パワー」では、本学学生・一般県民など約80名が参加しました。

在アメリカ華人が中国の文化外交に及ぼす媒介的作用と、今後、米中関係に与える影響について、この分野の第一人者である華中師範大学李其榮教授を中国から招き、講演を行っ

ていただきました。在アメリカ華人は、米中の経済科学技術の交流・協力、中華文化の海外への伝播、米中関係の発展において、非常に重要な役割を果たしているとお話に、参加者は熱心に耳を傾けていました。

当センターでは今後も随時、県民向けの公開セミナーを開催する予定です。



李其榮教授による講演

## ■ 大学発ベンチャーNPOの誕生と各受賞報告

### ①NPO法人ホスピタル・プレイ協会

**すべての子どもの遊びと支援を考える会が大学発ベンチャーに短期大学部で初認定**

8月、NPO法人ホスピタル・プレイ協会が短期大学部として初の大学発ベンチャーNPOに認定されました。当NPOは、松平千佳准教授のこれまでの研究成果の社会還元と更なる教育の場として、①病院や療育施設などに入院している子どもに遊び（ホスピタル・プレイ）を届ける事業、②在宅の病児や障がい児にホスピタル・プレイを届ける事業、③ホスピタル・プレイを普及するための教育研究事業などを行います。

### ②第6回健康寿命をのぼそう!

**アワード(母子保健分野)厚生労働省子ども家庭局団体部門優良賞を受賞**

11月、当NPO法人が厚生労働省が取り組む「健やか親子21(第2次)」の趣旨を十分に理解し、母子の健康増進への取り組みを積極的に推進していると、優良賞を受賞しました。

### ③読売福祉文化賞を受賞

12月、第15回読売福祉文化賞(一般部門)を受賞しました。福祉文化賞とは、福祉にクリエイティブな視点を取り入れたことに注目し、当NPO法人の場合、医療による治療の癒しの部分に焦点をあてた、福祉のステップアップした形である活動を推進してきたことに対して評価いただきました。

今後とも、ホスピタル・プレイの発展・普及に尽力して参ります。



静岡県立大学発ベンチャーNPOの称号を授与された松平准教授



読売福祉文化賞贈呈式の様子(左から2人目が松平准教授)

国際関係学研究科附属 グローバル・スタディーズ研究センター主催  
成城大学グローバル研究センター・成蹊大学アジア太平洋研究センター共催

連続公開セミナー「逆流し始めたグローバル化」

—今なぜ世界各地で他者が排斥されるのかを考える—

近年、英国のEU離脱、米国のトランプ大統領やフィリピンのドゥテルテ大統領の台頭にみられるように、世界各地で移民・難民排斥や、外国人嫌悪等の他者排斥型ナショナリズムが勃興しています。わが国においても、外国人や移民・難民を排斥しようとする動きが活性化しています。

グローバル化が文字通り世界規模の一体化現象であるとしたら、今まさに、世界中で同時多発的に起こりつつあるのは、グローバル化への反動であると考えられます。いわば、世界各地を外

に開く波であったグローバル化が、今度は、各国の内側に向かって逆流を始めたのです。これは、これから世界秩序が大きく変動していく兆しなのかもしれません。

グローバル・スタディーズ研究センターでは、こうした現象を学際的に分析し、日本のみならず、ヨーロッパ、北米、南米、東南アジア、アフリカ、オセアニア等、地球規模の地域間比較研究の視点からアプローチすることを目的に、この連続セミナーを企画しました。連続セミナーは10月から2月にかけて、全9回を本学教員や

外部講師が解説する形で行い、関係授業の受講学生だけでなく、多くの社会人も聴講し熱心に質問するなど、活発な議論が行われました。



第4回セミナーで英国のEU離脱について解説する柄谷氏

全9回のプログラム

第1回 10月2日	湖中真哉教授 (グローバル・スタディーズ研究センター長)	「趣旨説明—逆流し始めたグローバル化を捉える」
	川田牧人氏 (成城大学・グローバル研究センター)	「フィリピン革命期におけるナショナリズム形成過程における排除と包摂」
第2回 10月16日	網中昭世氏 (アジア経済研究所)	「グローバル化への合流とナショナリズムの醸成—南アフリカにおける移民排斥とその反動」
第3回 10月23日	細谷広美氏 (成蹊大学・アジア太平洋研究センター)	「グローバル化と国内格差:ペルーの分断するネーションズ」
第4回 12月11日	柄谷利恵子氏 (関西大学・政策創造学部)	「『イギリス人』を問い直す—Brexit後の移民選別システムの再編成」
第5回 12月14日	高畑幸准教授 (グローバル・スタディーズ研究センター)	「フィリピン人介護労働者の国際移動と日本—ケア労働者の多段階移動を中心に」
第6回 1月9日	南川文里氏 (立命館大学・国際関係学部)	「現代アメリカの排外主義:トランプ現象とその歴史的文脈」
第7回 1月19日	塩原良和氏 (慶應義塾大学・法学部)	「オーストラリアにおける排外主義—歴史的経緯と近年の動向」
第8回 1月23日	澤田敬人教授 (グローバル・スタディーズ研究センター)	「ニュージーランドの新自由主義的行財政改革—代償としての格差拡大・トリクルダウン仮説の破綻」
第9回 2月16日	Maria Rosario Piquero-Ballescás氏 (元・フィリピン国立大学・東洋大学教授)	“Broadening Multiculturalism from below? Review and Updates”
	石井由香教授 (グローバル・スタディーズ研究センター)	「多文化社会シンガポールと外国人労働者・新移民」

## 公開授業 演劇×音楽で蘇る「羽衣」を開催しました

### いま・ここに蘇る 「天女と人間の出会いの奇跡」

1月24日、本学大講堂にて、全学共通科目「ムセイオン静岡—世界の文化遺産B—」（立田洋司名誉教授担当）の特別企画として「羽衣」劇の公演を行いました。前半にSPAC俳優陣による「羽衣」音楽劇、後半に国際関係学専攻科長の富沢寿勇教授（文化人類学専攻）による「世界の羽衣伝説」の講演を行いました。当日は本学学生、一般参加者計275名が参加し、幽玄の世界を堪能しました。

今回の公演は国際関係学部の鈴木さやか講師が能「羽衣」をもとに企画・制作した「羽衣」絵本を原作とした音楽劇です。天女役と白竜役をSPACの実力



派俳優である布施安寿香さんと吉見亮さんが演じ、作曲・演奏を作曲家で舞台への楽曲提供の経験が豊富な渡会美帆さんが担当しました。加えて、照明、音響等においても舞台芸術のプロ（音響：堀池龍二さん、照明：日尾豪志さん）の協

力を得て実現しました。

講演「世界の羽衣伝説」では、富沢教授が、世界各地の白鳥処女伝説について触れ、それぞれの共通点や「羽衣」における天女の特質について解説しました。

### 能「羽衣」の絵本

この絵本は、国際関係学部の鈴木さやか講師と学生6名が本文を、北九州市在住作家のなかおまきこ氏が作画を、観世流能楽師、観世会副理事長の山階彌右衛門氏が監修を担当し、完成に至りました。世界文化遺産構成資産である三保の松原を舞台とする能「羽衣」を、教育・経済の面で活用し、地域の活性化につなげることを目的として作成されました。



### 「羽衣」絵本

監修：山階彌右衛門  
文：鈴木さやか+学生  
絵：なかおまき  
発売元：静岡新聞社、2015年  
※静岡の各書店でお求めいただけます。

## 平成29年度 学位記授与式 (卒業式・修了式)

平成29年度の学位記授与式(卒業式・修了式)を次の日程で開催いたします。

開催日 平成30年3月20日(火)  
開場 午前9時10分  
着席 午前9時40分  
開式 午前10時  
会場 グランシップ大ホール 海  
静岡市駿河区東静岡2丁目3-1  
(最寄駅 JR東静岡駅 徒歩5分)  
保護者席をご用意しておりますので、  
ぜひご列席ください。  
問い合わせ先 TEL 054-264-5009 (学生室)

## 平成30年度 入学式

平成30年度の入学式を次の日程で開催いたします。

開催日 平成30年4月5日(木)  
開場 午後1時10分  
着席 午後1時40分  
開式 午後2時  
会場 グランシップ大ホール 海  
静岡市駿河区東静岡2丁目3-1  
(最寄駅 JR東静岡駅 徒歩5分)  
保護者席をご用意しておりますので、  
ぜひご列席ください。  
問い合わせ先 TEL 054-264-5009 (学生室)

## 薬学部がタマサート大学医学部と部局間協定を締結



協定書に署名する両学部長(右が賀川薬学部長)

本学薬学部が、タイ王国のタマサート大学医学部と部局間協定を締結することとなり、8月30日に、本学草薙キャンパスにおいて部局間協定調印式を執り行いました。

タマサート大学からPreecha Wanichsetakul医学部長を始めとする9名の教職員らをお迎えし、本学薬学部からは、賀川義之薬学部長、鈴木隆薬学研究院長、今井康之副学長、石川智久副学部長、尾上誠良教授、黒川洵子教授が出席しました。

両学部長による挨拶、両大学・学部紹介に続き、賀川学部長及び

Wanichsetakul医学部長が協定書に署名し、参加者全員で記念撮影を行いました。

今回の学部間協定により、若手研究者の相互訪問の実施および共同研究の推進について合意形成が図られました。次回以降の訪日において、薬学教育・研究センターの研究室が移転する県立総合病院先端医学棟の見学をふくめ、

医学と薬学の更なる国際研究交流の可能性を提案しました。さらに、タイ王国の大学院学生、ポストドクター、研究者が来日して研究するための資金確保の方策、本学での受け入れ体制について意見交換を行いました。その後、薬学部の研究室見学を実施し、具体的な研究領域のイメージの共有が図られました。



記念撮影

## 大学間交流協定締結前のプレ交流～延辺大学訪問記～

本学は平成30年3月末に、中国吉林省延辺朝鮮族自治州にある延辺大学と交流協定を締結する予定です。その「プレ交流」として、平成29年10月、国際関係学部の教員2名と学生15名が同大を訪れました。

その印象記を、3年生の松澤知佳さんに寄せてもらいました。



朝鮮半島の地域研究を行う小針ゼミ所属の私たちは、中国東北部の延吉市を訪れました。延辺朝鮮族自治州の州都であるこの街は、通りの看板や標示が中国語の簡体字と朝鮮語のハングル文字の両併記であり、見慣れない光景に目を奪われました。

延辺大学は延吉市の中心部にあります。文理21の学院(学部・研究科に相当)に2万人余りの学生が在籍しているそう

で、本学よりも規模が大きいです。1949年創立だけあって、伝統を感じます。

ここを訪れた第一の目的は、延辺大学の大学生との幸福論をめぐる討論でした。双方の学生とも自分はいま幸せだと答えましたが、中国側の意見にハッすることが多々ありました。彼ら／彼女らは幸福だと感じる理由を、「両親がいるから」、「自分を心配してくれる家族がいるから」とほとんどが口にしたのです。日本人でもそう考える人はいるでしょうが、言葉には出さない人が大半でしょう。家族を想う心の大きさに、私たちは考えさせられました。

討論の翌々日、両大学の学生が混ざって4グループに分かれ、延吉市内を回りました。日本語が流暢な延辺大生にその理由を聞くと、延吉では中学校の段階で日本語学習が必須だったからだと言います。中国語、朝鮮語、そして日本語まで……

現在、日本と中国、朝鮮半島の間には外交関係などで複数の問題を抱えています。学生交流では緊張や嫌悪感などは微塵もありませんでした。個人レベルで意見交換する交流の重要性を再認識した次第です。



延吉空港に到着した国際関係学部の教員と学生たち。建物の標示は中朝両併記

# 静岡県立大学創立30周年記念事業

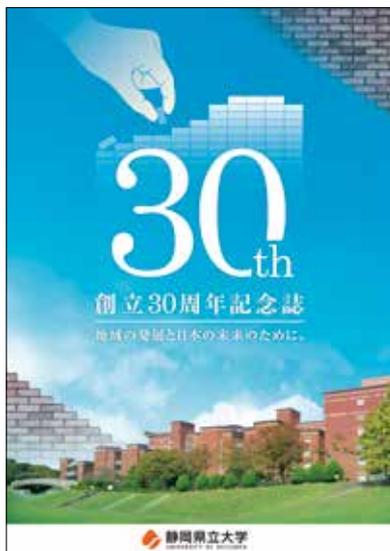
本学は、平成29年4月に創立30周年の節目を迎えました。これを記念して、平成28年度から記念式典や記念事業等を実施するとともに、平成29年度には、次の事業を実施しました。

## 1 「10年後の静岡を創る スーパーセミナー」の開催

創立30周年に当たり、本学の存在意義を顧みる機会と位置づけました。本学は、静岡県の最高学府として、将来に渡り「知の拠点」であり続けられればと望みます。そのためには、地域の産業と県民の福利を牽引する方向性を世に向かって発信すべきです。本企画は、公開講座等と異なり、行政（静岡県、静岡市）、産業界、市民のそれぞれの目線に立った講演、さらにテーマごとに学術的見地からの分析を大学教員が加えました。このような観点から、本セミナーは静岡商工会議所新産業開発振興機構、(株)静岡新聞社・静岡放送(株)との共催とし、静岡県、静岡市、静岡ガス(株)、(株)静岡銀行、静岡鉄道(株)、鈴与(株)から後援をいただきました。延べ1,000名弱の参加があり、毎回、静岡新聞に内容記事が掲載されました。一連のセミナーの内容は、デジタル書籍として発刊の準備を進めています。

### 開催概要

第1回	日 時：平成28年12月3日(土) 午後2時から午後4時 会 場：静岡県立大学小講堂 テーマ：そして誰もいなくなった～人口流出とその対策
第2回	日 時：平成29年1月21日(土) 午後2時から午後4時 会 場：しずぎんホール ユーフォニア テーマ：静岡を買いますか?～地域産業の活性化
第3回	日 時：平成29年2月11日(土) 午後2時から午後4時 会 場：静岡県立大学大講堂 テーマ：人・モノ・カネが静岡を駆け巡る～産業基盤の刷新
第4回	日 時：平成29年3月11日(土) 午後2時から午後4時 会 場：静岡県立大学大講堂 テーマ：沸騰する地球。私たちは生き残れるのか～災害・持続可能社会
第5回	日 時：平成29年4月8日(土) 午後2時から午後4時 会 場：静岡商工会議所静岡事務所 テーマ：静岡発、ジェンダー平等社会 ～女性の活躍と社会的包摂の地域づくり
第6回	日 時：平成29年5月6日(土) 午後2時から午後4時 会 場：しずぎんホール ユーフォニア テーマ：旅人来りて曰く、廁所在哪里(トイレはどこですか)? ～観光と海外展開
第7回	日 時：平成29年6月17日(土) 午後2時から午後4時 会 場：静岡県立大学大講堂 テーマ：何歳まで生きていきたいですか?～医療・介護 特別講演：本庶佑静岡県公立大学法人顧問 (本法人前理事長、京都大学高等研究院特別教授)



## 2 創立30周年記念誌の発刊

本学の30年を振り返り今後の礎とする「静岡県立大学創立30周年記念誌」を、平成29年9月に発刊いたしました。本記念誌では、歴代学長からのメッセージ、30周年記念事業の紹介、各部署の30年の歩み、本学変遷の統計資料

等を掲載しました。本学創立30周年を機に、本学の将来の発展に向けたマイルストーンになれば幸いです。なお、本記念誌は本学ホームページにてデジタル版としてご覧いただけます。

静岡県立大学創立30周年記念事業実行委員会  
委員長 小林裕和

## キャリア支援センターだより

この春を境に、1年生は2年生に、2年生は3年生にと進級し、4月には新入生を迎えることとなります。在学生の皆さん、卒業後の進路について段々と思いを巡らせることが増えてくるのではないのでしょうか。

就職活動を本格的に始める前の時期は、比較的時間にゆとりがあるものです。大学生のうちに行えることに積極的にチャレンジしましょう。社会に出てからでは、自由な時間を持つことが難しくなってきます。留学、部・サークル活動、ボランティア活動、アルバイトなど、大学の内外で得られる様々な経験や人との出会いは、皆さんを成長させると

もに、視野を広げる大きなきっかけとなります。今できること、今しかできないと思うことに挑戦しましょう。様々な経験は、後々、就職活動、そして社会人になる上で大いに役立つでしょう。

また、早い時期から色々な企業を研究することもおすすめです。本格的に就職活動が始まってからでは、企業を研究する時間は取れません。自分の興味のあるところから始め、企業の商品やサービスはもちろん、顧客や価格、企業の方向性などを調べていくと社会背景が見えてきて企業に対する理解が深まります。また、自分の知っている大

手・有名企業だけではなく、地元の中小企業にも目を向けてみましょう。世界シェアが高い企業、先進的な取組みをしている企業など意外と知らなかった地元企業の良さを発見できることもあります。

キャリア支援センターには、様々な情報が集まっています。1年生から利用できるのも、まずは気軽な気持ちで立ち寄ってみませんか。



## 茶学総合研究センターが「ティーカフェ」を開催

食品栄養環境科学研究所附属 茶学総合研究センターでは、学生や教職員などにお茶に興味を持って親しんでもらうために、「ティーカフェ」を学生ホールで開催しました。第1回は11月22日に、世界6大茶種「緑茶」「紅茶」「青茶（ウーロン茶）」「白茶」「黒茶（プーアル茶）」「黄茶」をテーマに、第2回は12月22日に、見た目華やかな「工芸茶」と日本茶の旨味体験をテーマに行いました。来場者は珍しいお茶の試飲や、日本茶インストラクターが淹れた美味しい静岡茶を味わうことを通して、お昼のひとつきをゆったりと楽しみました。

茶学総合研究センターでは、今後も毎月1回ティーカフェを開催する予定にしており（長期休業期間を除く）、日程やテーマは決定次第大学ホームページでお知らせします。どなたでも無料で参加できます。





**看護学部看護学科**  
**青木 和恵教授**

## —先生が取り組まれている成人看護の研究について、看護職の役割の面からお聞かせください。

がん医療で展開される WOC ケアを専門に研究しています。WOC ケアとは、創傷(Wound)、オストミー(Ostomy)、失禁(Continence)ケアの3領域が一緒になった領域のことです。なかでもオストミー(Ostomy)ケア、つまりストーマケアを最も得意な領域としています。ストーマとはがんの治療などによって排泄の経路の変更を余儀なくされる場合に腹部に造る人工肛門や、人工膀胱などのことです。ストーマではこれまでの身体で行っていた「排泄物を体内にある程度溜めて適切なところで一挙に出す」という排泄パターンとは異なり、腹部のストーマという腸でできた出口から不随意に出てくる便や尿を装具で受け止めて、装具に溜めてから出すという方法で排泄をコントロールします。腹部に造設されたストーマからのこのような制御のきかない排泄によって、患者さんはさまざまな障害や不便や苦しみを抱えます。これらを乗り越え、患者さん自身がストーマの身体や生活に適応し、心身ともに充実した生活をおくることができるよう支援することがストーマケアを専門とする看護師の役割と言えます。

す。ひとり一人が、がんである人生と向き合い、がんであっても、「良い人生だった」と思えるように支援するのががん看護であり、ストーマケアもその中の一つなのです。

## —現在の研究を行おうと思われたきっかけは何ですか。

看護師になってからずっと、がんの専門病院に勤務してきました。看護師として働き始めた当時、がんは不治の病でした。看護師として、「不治の病であるがんの医療に貢献したい」という思いが、その後長年にわたって多くのがんの患者さんと向き合わせてくれたのだと思います。ストーマケアに出会ったのは看護師になって約10年経った頃のことです。その頃のストーマケアは今は異なり、ストーマ周囲の皮膚炎、ストーマ装具の不具合、生活の不便などで患者さんは大変に苦しんでいました。しかしストーマケアは、取り組めば取り組むほど、そのような苦しい状態を改善させることができると実感できるケアでした。それから30年たった今も、ストーマケアではまだ未知のことが多く、今後も研究を重ねることでストーマの患者さんに、ひいてはがん医療に貢献できると確信しています。

## —先生のご経験から、がんの患者や家族に対してどのように思われますか。

どの患者さんも「がんである」と知った時の衝撃は大変大きなものです。それはがんの程度や状況に関わらず、がんであることによって自分は死ぬ存在である、そのことから逃れることができないという現実を突きつけられるからだと思います。けれど、看護師として患者さんの側にいてわかるのは、そうした大きな苦しみを人は必ず乗り越えていくことができる、ということです。人間の強さを見せてくれるのです。その強さが生まれるのは、がんという病気で死を考えざるを得なくなったことによって、自分にとって大切なものは何か、自分はどのように生きていべきかを考えるようになるからではないかと思います。がんによって、これまでの人生を振り返り、残りの人生をどう生きていくのか、何を叶えたいのかを、自分自身に何度も問いかけ、残りの人生の生き方を決定していくという過程がおこり、その苦悩の果てに患者さんが輝きだす姿を何度も見てきました。家族も患者さんをなんとか助けたいと願いながら、患者さんががんに向かっている現実をどう受け止めるのか、大きな苦しみにぶつかります。そして、失いたくない患者さんの存在やその患者さんとのこれまでの人生を振り返り、やはり家族も次第に「今後、どうサポートしていくことが患者さんに必要なのか」とい

うことを考えるようになります。

誰にとっても、がんは怖いです。もちろん私自身にも。ただ、長年の間に縁を結んだ多くの患者さんは、がんになったからこそ得た人としての輝きや素晴らしい生き方を見せてくれました。だからもし私がかんになっても、苦しみ、もがいた末に、きっとそうした強さや輝きが芽生えるだろうと信じていることができるのです。私は看護師として、研究者として、がん患者さんと向き合い続けることで、人間が本来持つ強さと向き合い続けているように思います。

## 一学生の成長を感じるのはどのような時ですか。

卒業論文の指導にあたっていますが、私が期待している以上のことに気づき、私が考えつかなかった新しいことを考えてくる学生の思考に驚かされます。卒業論文の



卒業論文の相談に応じる青木先生

指導では、最初は背中を押しますが、その後、学生たちは文献検索や実習等の様々な経験を通し、自ら感じた疑問や課題に対する答えを懸命に探してくるのです。そんな学生たちの素晴らしい視点にハッとさせられ、時に深く納得することをとても嬉しく思っています。卒業後、看護師としての進路に進む学生には、優しく、たくましく、

包容力のある看護師に育ってほしいと願っています。一方、研究者を目指す学生もいるでしょう。看護学という分野は研究的には未開の地で、私たちは宝の山に座っています。研究者としての道を進むのであれば、その宝の山から本物の純度の高い美しいダイヤモンドを掘り出す研究者になってほしいと願っています。

## STUDENT VOICE



### 実習室にて

右：鈴木さん  
左：須田さん

### 看護学部 4年 須田 美穂さん

私が初めての実習で受け持たせていただいた患者さんは人工肛門を造設された方でした。テキパキと自らをケアできる患者さんの姿は、それまで私が抱いていた患者像とはかけ離れており、深く興味を持つきっかけとなりました。そこで、卒業論文では人工肛門をテーマにしたいと思い、WOCケアとしての臨床経験が豊富な青木先生の研究室を志望しました。学生と一緒に学びを深めようとしてくださる熱意のもと、充実した学びを得ることができました。

卒業後は看護師として病院で勤務する予定です。在院日数の短縮化傾向により、患者の気持ちが置き去りにされやすい今日だからこそ、今回の研究で明らかにすることができた人工肛門の障害を患者が受け入れる過程を踏まえ、様々な疾患によりこれまで難なく生活できた状態とは異なる体を、患者が受け入れていけるよう、十分なケアが行える看護師を目指したいです。

### 看護学部 4年 鈴木 華穂さん

3年生の時の領域別実習でストーマを造設された患者さんを担当したことがきっかけで、ストーマを造ったことで人生がガラリと変わる患者さんが多いと知りました。そこで、「ストーマケア：病棟で求められる新しい援助のあり方 標準化と個別化の共存に向けて」というテーマで研究を行いました。病院ではクリニカルパス※の導入により、短期間で効率的に医療を提供できるメリットがある一方、個別の状況に応じた対応が難しいというデメリットもあります。標準化によってもたらされる効率的な医療と、細やかなニーズに対応できる個別化の両者を同時に強化し続けることが、今医療現場には必要であると卒業論文にまとめました。

この春には看護師として病棟で患者さんと接することになります。まずは配属された病棟で日々着実に経験を積みながら、将来的には興味のある分野にも挑戦できるよう、看護師としての自分を成長させていきたいです。

※治療や検査の標準的な経過を説明するため、入院中の予定をスケジュール表のようにまとめた入院診療計画書のことをいう。



### 青木 和恵 (あおき かずえ)

国立がん研究センター中央病院看護師（皮膚・排泄ケア認定看護師）、静岡県立静岡がんセンター副院長を経て2016年4月より静岡県立大学看護学部教授。がん患者へのWOCケアの展開をライフワークとして、2013年、第22回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会で学会会長を務め、「すべてのがん患者が歩むすべてのプロセスのために「DynamicW・O・Cケア」でこれについての系統的な取り組みを提言した。現在、その目的のための研究・教育・学術活動を行っている。大切にしている言葉は「量は質に変化する」。最近心に響いた言葉は、「勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし」。東京都立新宿高等看護学院卒業、昭和女子大学短期大学部国文学科卒業、金沢大学大学院医学系研究科保健学専攻看護学領域博士課程前期修了。

青木研究室  
平成29年度 卒論グループ  
教員 2名 学生 4名

# 活躍する卒業生

The graduate who plays an active part



お名前 佐藤 聖さん  
卒業学部 薬学部 薬学科  
(2013年3月卒業)  
勤務先 浜松医科大学医学部附属病院  
薬剤部

## Q1. 現在のお仕事について教えてください。

大学病院の薬剤師として働いています。調剤や抗がん剤の調製など院内に必要な薬の供給・管理を行うとともに、抗がん剤などの薬物治療を行う患者さんに、薬の説明や副作用の確認をすることで、安全で質の高い薬物治療を行えるようサポートしています。抗がん剤治療を行っている患者さんは不安でいっぱいです。そうした患者さんに指導をするときは今でも緊張感がありますし、「もっと勉強しないとイケないな」とやりがいを感じます。

## Q2. 大学生生活(ゼミやサークル)で印象に残っていること、今のお仕事に影響を与えたことは何かありますか？

病院・薬局での実務実習は、自分の将来を考えるうえで、大切な時間であったと感じています。実習を通して薬剤師の仕事がたくさん勉強させていただいたことはもちろんですが、実際に現場で働いている方々と触れ合い、お話できたことはたいへん貴重でした。自分が現在の職場に決めたのも薬局実習の先生から「君は大学病院が合ってるよ」の一言が後押しになりました。

## Q3. 静岡県立大学に入学してよかったと思うことはありますか？

静岡県立大学では、薬剤師として働くための能力を身につけるだけでなく、研究の楽しさを知ることができました。私は今、薬剤師として働く一方で、社会人大学院生として臨床研究を立ち上げています。仕事と研究の両立は、たいへん感じることもありますが、それでも楽しくやれているのは、研究室での3年間があったからだと思います。研究室でご指導いただいた先生方にはとても感謝しています。

## Q4. 今後の目標について教えてください。

今後は現在行っている研究や新たに始める研究を論文投稿や学会発表などの成果としてきちんと残していきたいと思っています。自分たちの研究や業務の取り組みをアウトプットしていくことは大学病院で働く薬剤師に求められていることだと思います。その成果が少しでも適切な薬物治療を行ううえで有用な情報となり、最終的に患者さんの役に立つことになれば嬉しいです。

## Q5. 在学生にメッセージをお願いします。

自分の長所や特技を存分に磨いてください。今の職場では、私と同じように薬学部を卒業してきても、それぞれ個性であふれていてとても楽しいです。英語が得意な人、統計学に詳しい人、コミュニケーション能力の高い人、そういった仲間たちと協力し、ときに意見をぶつけ合い、業務や研究をできることを幸せに思います。あなたが大学で磨いた個性はきっと将来、職場の仲間たちを助けるときがくると思います。

お名前 藤浪 友加里さん  
卒業学部 大学院 薬学研究科薬科学専攻  
(2013年3月卒業)  
勤務先 持田製薬株式会社 製剤研究所

## Q1. 現在のお仕事について教えてください。

医薬品の製造、販売をするにあたり必要となる品質データの取得や申請書の作成等を行っています。評価する製品のあるがままの姿を正確に測定すること、そのために新しい手法を考え、周りを納得させることが必要になることもあります。誰も知らない答えを見つけるようなものですので、とても難易度は高いですが、解決の糸口を見つけた時にとてもやりがいを感じます。

## Q2. 大学生生活(ゼミやサークル)で印象に残っていること、今のお仕事に影響を与えたことは何かありますか？

大学時代は医薬品の製造工学を研究してい

ました。現在の仕事と同じ製剤分野について学問として基礎から学ぶことができたため、感覚や知識として大いに役立っていると感じます。研究を通して、達成目標を定めること、アプローチ方法を考えること、具体的な計画を練ることの重要性を実際の経験から学びました。これはどんな種類の仕事でも大切で、意識できるようになったきっかけとなった大学時代を大切に感じています。

## Q3. 静岡県立大学に入学してよかったと思うことはありますか？

経験豊かな先生との距離が近く、色々なことを質問したり相談しやすかったです。また、在学中は同じように学問を志す学生が周囲にたくさんいて、卒業後も近い業界に友達や知り合いがいるので、互いに情報交換をしたり相談しあえる仲間がいるため非常に助かっています。

## Q4. 今後の目標について教えてください。

現在自分が所属する研究所の中だけでなく、様々な仕事内容に細分化されていて、一つの製品が出来上がるまでに各部署が連携して研究開発をしています。今までは所属部署内で担当する仕事の流れや技術を習得することに注力してきましたが、今後は、他部署と連携する上でさらに重要となるプロジェクト全体の把握や折衝力、交渉力を磨くことが目標です。

## Q5. 在学生にメッセージをお願いします。

大学時代は、自分の責任で色々な事に挑戦できる格好のチャンスだと思います。大学ほど大勢の人が集まる場所はなかなかありません。学部以外にもサークルやアルバイトなど学生生活を通して様々な人と出会える機会があります。ぜひ、今までと違う体験や少しでも興味のある事に挑戦して、自分の経験値を貯め、視野をより広げてみてください。そして、自分の人生を通してやりたい事や目標が見つかったら、将来をきっと充実させてくれると思います。



## 産学民官連携

本学が取り組む地域貢献、産学民官連携活動による研究成果やイベント等の情報をご紹介します。

# 共同研究「完全自立型防災情報通信ステーション」の実証実験を防災訓練で実施

静岡県立大学では、大規模災害時の利用を想定した、LPガス発電機とソーラー電源で衛星インターネットのWi-Fi通信が可能な「完全自立型防災情報通信ステーション」の研究開発に民間企業と共同研究で取り組んでいます。11月21日に、学内防災訓練に併せて、発電や通信環境の実証実験を実施しました。実験では、悪天候を想定して、ソーラー電源からLPガス発電に切り替えを行い、衛星インターネットによるWi-Fi通信が可能になり、デジタルサイネージで災害情報が発信できることを確認しました。また、同時に、防災情報通信ステーションのLPガスを利用して炊き出し訓練も行いました。

大学での防災用LPガス発電機の導入は県内初で、大学でのLPガス発電機を備えた自立型防災情報通信ステーションは全国初です。

自立型防災情報通信ステーションの開発は、本学では経営情報学部の湯瀬裕昭教授（ICTイノベーション研究センター長）が中心に取り組んでいます。

### <実証実験の主なシステム>

衛星インターネットWi-Fi設備、ソーラー電源、LPガス自家発電機、安否情報システム、デジタルサイネージ災害情報システム、炊き出し設備（LPガスの屋外利用）

### <共同研究関係先>

静岡県立大学ICTイノベーション研究センター（静岡市駿河区）  
スカパーJSAT株式会社（東京都港区）  
株式会社メディア・ミックス静岡（静岡市葵区）  
株式会社昭栄（埼玉県行田市）  
株式会社ムラオカ（静岡市葵区）



LPガス自家発電機（右）と防災用デジタルサイネージ（中央）



衛星インターネットWiFi設備とソーラー電源

## 薬学部の共同研究成果が最も権威ある科学雑誌『Nature』に掲載 生体内ambimodal反応の実在性を初めて証明

本学薬学部生薬学分野の渡辺賢二教授、大橋雅生・元本学特任助教、佐藤道大講師とUCLA（University of California, Los Angeles）に所属するKendall N. Houk教授、Yi Tang教授らは、糸状菌Aspergillus属が生産するleporin Cの生合成において酵素がDiels-Alder（DA）反応とhetero Diels-Alder（HDA）反応を制御せず、酵素LepIがDA反応の生成物を基質としてretro-Claisen転位を触媒する経路をデザインすることで、HDA

反応で与える生成物と同じ生成物を与えることを明らかにしました。本研究では、脱水反応、ambimodal DA/HDA反応、retro-Claisen転位を触媒するSAM依存性多機能酵素LepIを発見し、その詳細な反応機構を明らかにしました。LepIはSAM依存性に加え2種類のペリ環状反応を触媒する前例の無い天然酵素であり、着目すべきは世界初のretro-Claisen転位を触媒する天然酵素であることです。本研究成果はさらに多くのペリ環状反応を触媒する酵素が天然

に存在することを想起させると共に、既存のSAM依存性酵素をペリ環状反応を触媒する酵素へと進化させるための重要な知見を与えるものです。

本成果は、生薬学分野（渡辺教授、大橋・元特任助教、佐藤講師）とKendall N. Houk教授、Yi Tang教授らによるJSPS 頭脳循環プログラムによる共同研究の成果です。学術において最も権威のある雑誌「Nature」（Impact Factor: 40.137、5 Year IF: 43.769）電子版に9月13日付けで掲載されました。

掲載された論文

SAM-Dependent Enzyme-Catalysed Pericyclic Reactions in Natural Product Biosynthesis  
Masao Ohashi, Fang Liu, Yang Hai, Mengbin Chen, Man-cheng Tang, Zhongyue Yang, Michio Sato, \*Kenji Watanabe, K. N. Houk & \*Yi Tang

# はばたき寄金からのお知らせ

## 「第4回県大生・県大教職員の創造力コンテスト」、「第21回学生文芸コンクール」の開催

剣祭2日目の10月29日に、はばたき寄金主催の「第4回県大生・県大教職員の創造力コンテスト」の審査と「第21回学生文芸コンクール」の表彰式が行われました。創造力コンテストには2人のエントリーがあり、当日発表が行われました。学生文芸コンクールには、短編小説3篇、評論・エッセイ11篇、短歌9件(45首)、川柳18件(90句)、イラスト7点、写真28点の応募がありました。それぞれ審査の結果、次のとおりとなりました。



受賞者全員で



創造力コンテストの審査

### 第4回県大生・県大教職員の創造力コンテスト受賞結果

部門	受賞	名前	所属	作品名
創造力コンテスト	最優秀賞	山本 聖也	国際関係学部	YouTube、Twitter等のSNSを活用した、模擬授業型広告モデルの提案ー草薙から世界へー
	優秀賞	中村 洸友	薬学部	拡散力を生かす。SNSで全国へ～県施設を情報発信の拠点に～

### 第21回学生文芸コンクール受賞結果

部門	受賞	名前	所属	作品名
短編小説	最優秀賞	野田 侑希	国際関係学部	Moon's Unrequited Love
	優秀賞	澤野 華世子	国際関係学部	デイズー
	佳作	原川 真緒	看護学部	秋待ち
評論・エッセイ	努力賞	松井 杏美	国際関係学部	原因と結果
短歌	最優秀賞	澤野 華世子	国際関係学部	秋と君
	優秀賞	田部 美紗子	薬学部	懐古
	優秀賞	小林 勇太	薬食生命科学総合学府	内定ゲットだぜ
	佳作	田部 美紗子	薬学部	群青の日
	佳作	青柳 有紀	薬学部	木曜午前零時
	佳作	山本 奈央	国際関係学部	健康長寿の秘訣
	努力賞	山田 朋宏	薬食生命科学総合学府	頑張る
川柳	最優秀賞	山本 奈央	国際関係学部	成績評価平均値
	優秀賞	工藤 悠翔	薬学部	就職面接
	優秀賞	山田 朋宏	薬食生命科学総合学府	就活
	佳作	進藤 卓弥	薬食生命科学総合学府	インスタ女子
	佳作	石橋 未来	薬学部	学校生活
	佳作	長谷 怜奈	薬学部	坂登る
	努力賞	小林 勇太	薬食生命科学総合学府	友達の家
イラスト	佳作	澤野 華世子	国際関係学部	秋の調
	佳作	有村 歌織	国際関係学部	県大生 全員集合!!
	努力賞	中村 千紗都	薬食生命科学総合学府	氷解
	努力賞	中川 篤毅	薬学部	コホちゃん

部門	受賞	名前	所属	作品名
写真	佳作	玉舟 亮太	薬学部	流る
	佳作	川田 久美子	食品栄養学部	行楽日和
	佳作	菅野 真伎	食品栄養学部	水雨に咲く
	佳作	山田 朋宏	薬食生命科学総合学府	想いを込めて
	佳作	武田 真奈	薬学部	涼をとる
	佳作	大平 裕也	薬学部	情熱
	努力賞	小林 勇太	薬食生命科学総合学府	聖杯に祈るのは
	努力賞	柳田 洋翼	薬食生命科学総合学府	空からの朝焼け
	努力賞	山本 健太	薬学部	白一点
	努力賞	杉本 光輝	薬学部	スポットライト
努力賞	上田 一樹	薬学部	時の回廊	

皆様からの基金へのご協力、御礼申し上げます。(敬省略、寄付の順)

(平成29年2月～平成29年3月分)

伊藤秀治、石川智久、森山優、三崎健太郎、金川幸司

(平成29年4月～平成29年12月分)

渡邊聡、玉野春南、小針進、三浦進司、岩崎邦彦、山田直美、北野嘉章、坂田昌弘、眞鍋敬、山田静雄、今井康之、細川光洋、井口真彦、井出一彦、柏倉康治、創星会、小林裕和、河野康行、大学後援会、前山亮吉

# 図書館 だより

## 必要な資料の取寄せやリクエスト

レポート作成に必要な文献や、先生に推薦された図書を図書館で探したけれど見つからない。そんなあなたのために、附属図書館では国内の大学図書館と連携し、他の大学から資料を取り寄せたり、資料の複写を送ってもらったりする「ILLサービス」(Inter Library Lon)を構築しております。

### (1) 図書の借用や文献複写

図書の借用と文献複写は、本館の図書館蔵書検索システム(OPAC)から申し込むことができる。申込方法等は図書館Webサイトで提供。資料が附属図書館に到着次第「マイライブラリ」で通知する。

なお、入手に要する期間と費用は所蔵館によって異なる。

### (2) リクエスト

本学の学生は、学習や研究に必要な資料で、特に附属図書館に置いてほしい図書をリクエストすることができる。「マイライブラリ」を通して申し込む。

図書館から、あなたの物語は始まります。ご来館をお待ちしております。



## 私の一冊の本



著者:ジェームズ・アレン  
出版社:サンマーク出版  
請求記号:159//A41  
ISBN:978-4-7631-9509-8

これはある企業の社長が推奨されていた本です。今日、書店に行けば数多くの自己啓発本を目にしますが、1902年に書かれたこの原書はその先駆けとして、紹介してくれた社長をはじめ、今も多くの読者を勇気づけているようです。

私はこの類いの本を初めて手にしました。この本の一部を紹介しますと、私たちは日々、自ら心の中で思い、選んだ通りに行動しています。その結果が今日ここにあるのです。すなわち、自分こそが自分の人生の

紹介者 経営情報学部 講師 上原 克仁  
紹介図書 「原因」と「結果」の法則

創り手で、良いことも悪いこともみな、自分が描いたシナリオの結果だということです。思い通り物事が進まない状況に遭遇した時に思考を停止し放置してあきらめる、そして、それを自分以外のものや状況や他人のせいになろうとする他責はナンセンスなのです。

成功するためには、自分の心をワクワクさせるような理想や目標を抱き、ビジョンを見続けることが必要だといえます。そして、成功は、その人が「自分はそれを達成できる」という強い信念を持って創造のパワーを向け続け、数々の犠牲を払い、粘り強く努力を続けてきた結果なのです。決して、その人が幸運だとか運命だとか、偶然などというようなことはないのです。理想や目標を達成しようとする信念があれば、私たちは自分自身を成功に導き、抱いた理想は自らの未来を予言していることにほかなりません。

失敗は理想や目標と調和しない思いや行いによってその達成を自ら妨害し続けた結果ですが、それは成功に至る通過点

で、失敗を通じて身につけることのできる心の強さは、真の成功の確かな礎として機能するそうです。輝かしい未来へ向けた新しい出発点にもかかわらず、失敗したからといって悪意や羨望、怒り、不安、失望を心に抱いてはならないということです。

愚かゆえ、他責が得意で、オリンピック等に参加して活躍している選手を見て「すごいなあ」で終わらせていた私には、耳が痛くなる内容が多々ありました。奥が深く、いまだにこの本の内容全てを理解し、日々、実践できている訳ではありません。言うは易く行うは難しかもしれません。過去は変えられないけど未来は自分自身の力で変えられる、何事も自らの心の持ち方次第だということを理解させてくれます。やるかやらないかは自分次第です。この冊子はわずか100頁足らずで、数時間あれば読み終えることができます。何かがあって落ち込んだりした時、ぜひ、この本を手にとられてみてください。



# 奨学金授与式が行われました

平成29年3月から9月までの間に奨学金授与式が執り行われました。

今年度は、地域の地元企業13社から計59名の学生が奨学金をいただきました。本学では、有意義な学生生活を支援していくために、地元企業等の奨学団体の協力による各種奨学金制度を設けています。

## TOKAIグループ奨学金授与

6月20日

- 国際関係学部 1年  
AINUN SOFIEYA BINTI SAHIDAN
- 国際関係学部 4年 村田 智洋
- 国際関係学部 4年 齋藤 亮太
- 国際関係学研究科 修士2年 張 昀
- 薬食生命科学総合学府 博士前期1年 田野 孝一



## 「村上奨学財団」授与式

9月22日

- 薬学部 2年 三浦 佳恵
- 薬学部 2年 木下 希
- 国際関係学部 2年 梅垣 愛
- 国際関係学部 2年 渡邊 初音
- 国際関係学部 2年 古澤 和菜
- 国際関係学部 2年 NGUYEN VAN LONG
- 看護学部 2年 長谷川 美波



## 「静岡ガス奨学生」認定証授与式

6月30日

- 薬学部 5年 大嶽 鐘
- 薬食生命科学総合学府 博士前期1年 沖嶋 杏奈



## 「しずぎんアジア留学生奨学金」授与式

3月30日

- 国際関係学部 2年 ALIF IQBAL DHIAULHAQ
- 国際関係学部 2年 TRAN THI THOM
- 国際関係学部 3年 LIM MAO SHAN
- 国際関係学部 3年 村松 咲彩
- 国際関係学部 4年 KHINE MON YEE
- 経営情報学部 4年 XU YIXIN



## 「万城食品奨学金」授与式

6月22日

- 国際関係学部 1年  
ADRIANSYAH KEVIN MANDALA



## ロッキー奨学基金

7月21日

- 薬学部 4年 内田 真奈佳
- 薬学部 4年 佐伯 棕子
- 国際関係学部 3年 渥美 明日香



## 「静岡信用金庫奨学生」奨学金授与式

6月29日

- 国際関係学部 2年 鈴木 杏佳
- 経営情報学部 3年 八木 優歩



## スルガ奨学財団

- 薬学部 2年 佐野 歩
- 経営情報学部 3年 阮 勤
- 国際関係学部 4年 GARBUJA KHEMRAJ

## スイチ奨学金

6月28日

- 薬学部 6年 佐海 秀児
- 経営情報イノベーション研究科 修士2年  
TEH KHANG SIANG



## 「東海澱粉国際交流奨学基金」授与式

7月26日

- 薬食生命科学総合学府 博士前期1年 金 芳如
- 薬食生命科学総合学府 博士前期2年 程 相滂
- 国際関係学研究科 修士2年 SU MON THAN



## 「天野回漕店奨学金」授与式

8月9日

- 経営情報学部 2年 張 宏祥
- 経営情報学部 3年 謝 燁超



## エンケイ財団奨学金

9月22日

- 経営情報学部 2年 小野 千里
- 経営情報学部 3年 西浦 稔貴
- 食品栄養学部 4年 八木 周和
- 食品栄養学部 4年 山本 深月
- 薬学部 5年 戸倉 広貴
- 国際関係学研究科 修士1年 翁長 希望
- 国際関係学研究科 修士2年 MUNTYA AYUDYA
- 薬食生命科学総合学府 博士前期1年 NGUYEN THI PHUONG
- 薬食生命科学総合学府 博士後期2年 NURMILA SARI



### 地元企業等による本学学生への奨学金

名称	給付金額	支給期間	応募資格	29年度採用人数
(株) TOKAI ホールディングス	月額 5 万円	1 年間	全学生 (研究生、科目等履修生含む)	日本人 3 人、留学生 2 人
静岡ガス(株)	月額 5 万円	1 年間	学部生・大学院生	2 人
(株)万城食品	月額 5 万円	1 年間	東南アジアからの留学生	1 人
静岡信用金庫	月額 5 万円	1 年間	静岡県内出身の学部生	2 人
公益信託東海澱粉 国際交流奨学金	月額 3 万円	1 年間	アジアからの留学生のうち修士大学院生	3 人
(株)天野回漕店	月額 5 万円	1 年間	中国・東南アジアからの留学生のうち学部 2～3 年生	2 人
村上奨学財団	月額 2 万円	1 年間	学部 2 年生の者	7 人
株式会社静岡銀行	月額 10 万円	2 年間	アジア地域からの国籍を有する留学生	日本人 1 人、留学生 5 人
静岡県労働者福祉協議会	年額 20 万円	一時金	静岡県内に在住もしくは勤務する勤労者の子弟で 2 年生以上の者	3 人
スルガ奨学財団	月額 5 万円	2 年間	留学生で学部 3 年生の者	3 人
スイチ奨学金	月額 5 万円	1 年間	学部 2 年生以上で授業料減免を受けている者	2 人
エンケイ財団奨学金	月額 2 万円	1 年間	学部生・大学院生・アセアン諸国からの留学生	9 人
清水ロータークラブ	3 万円	一時金	外国人留学生のうち、他の奨学金を受給していない学部新入生	14 人

## 教員・学生の受賞

各受賞の詳細については本学公式サイトでのニュース&トピックスからご覧いただけます。

	受賞者名	所属	受賞名
教員	砂川 陽一 助教	薬学部	国際心血管薬物療法学会日本部会 (J-ISCIP) 第3回 J-ISCIP 学術集会 研究奨励賞
	吉成 浩一 教授	薬学部	日本毒性学会 第3回 日化協 LRI 賞
	鈴木 美希 助教	薬学部	メタルバイオサイエンス研究会 2017 関賞 (若手優秀研究賞)
	田中 紫葉子 助教	薬学部	第44回日本小児臨床薬理学会学術集会 ポスター賞
	上野 雄史 准教授	経営情報学部	日本リスク研究学会年次大会 大会優秀発表賞
学生	衣斐 遥	薬食生命科学総合学府	国際心血管薬物療法学会日本部会 (J-ISCIP) 第3回 J-ISCIP 学術集会 研究奨励賞、The 22th Annual Scientific Meeting of the International Society of Cardiovascular Pharmacotherapy (ISCIP) Young Investigator Award First Prize
	鈴木 光路・山田 朋宏	薬食生命科学総合学府	第63回日本薬学会東海支部 総会・大会 学生優秀発表者賞
	石井 亜実・大嶽 瞳	薬学部	第136回日本薬理学会関東部会 口頭発表学部学生部門 優秀発表賞
	佐野 実咲・筒井 優介	薬学部	第136回日本薬理学会関東部会 口頭発表学部学生部門 優秀発表賞
	岡本 彩香	薬食生命科学総合学府	日本核酸医薬学会第3回年会 優秀発表者賞 (川原賞)
	長島 悠貴	経営情報学部	観光情報学会第14回全国大会 大会奨励賞
	高山 卓大	薬食生命科学総合学府	第30回バイオメディカル分析科学シンポジウム (BMAS2017) 星野賞優秀発表賞
	福井 芹菜	薬学部	第30回バイオメディカル分析科学シンポジウム (BMAS2017) 星野賞優秀発表賞
	山田 朋宏	薬食生命科学総合学府	第15回次世代を担う若手のためのフィジカル・ファーマフォーラム (PPF2017) 若手研究者奨励賞
	橋本 若奈	薬学部	フォーラム2017: 衛生薬学・環境トキシコロジー 平成29年度日本薬学会環境・衛生部会新人賞、第5回メタロミクス研究フォーラム 口頭発表部門 優秀発表賞
	古川 美乃里	食品栄養科学部	公益社団法人 環境科学会 2017 年会 年会最優秀発表賞 (富士電機賞)
	瀬尾 真紀子	食品栄養科学部	公益社団法人 環境科学会 2017 年会 年会優秀発表賞 (富士電機賞)、平成29年室内環境学会学術大会 優秀ポスター賞
	鈴木 優伽	経営情報イノベーション研究科	FIT2017 第16回情報科学技術フォーラム 奨励賞
	坂上 稔典	薬食生命科学総合学府	第113回日本食品衛生学会学術講演会 優秀発表賞
	田島 悠也	食品栄養科学部	国際変異原学会 (ICEM2017) Young Scientist Award
	内海 未央	薬食生命科学総合学府	第14回日本カテキン学会年次学術大会 研究奨励賞
	村上 拓	薬食生命科学総合学府	第5回メタロミクス研究フォーラム ポスター発表部門 優秀発表賞
	大嶽 瞳	薬学部	糖鎖科学中部拠点 第14回「若手の力」フォーラム 糖鎖科学中部拠点奨励賞
程 相滄	薬食生命科学総合学府	2017 アジア薬科学会議 最優秀発表者賞 (Best Paper Award Silver Medal award winners)	
稲垣 僚	薬食生命科学総合学府	平成29年度日本食品科学工学会中部支部大会 優秀賞	
中山 綾花・山本 深月	食品栄養科学部	平成29年度日本食品科学工学会中部支部大会 優秀賞	

※H29年7月からH30年1月末までに本学の公式ホームページに掲載依頼のあった受賞を掲載しています。

## 教員活動評価における業績優秀者への学長表彰

静岡県立大学では、教員の教育研究活動等の一層の向上を図ることを目的として、教員活動評価を実施しています。12月21日に、2016年度(平成28年度)の教員活動評価における業績優秀者13人に対して、学長表彰を行いました。

学部等	職位	氏名
薬学部 薬学研究院	教授	奥 直人
	准教授	岩尾 康範
	講師	辻 大樹
	講師	世戸 孝樹
食品栄養科学部 食品栄養環境科学研究院	教授	三浦 進司
	准教授	市川 陽子
	助教	島村 裕子
国際関係学部 国際関係学研究所	教授	富沢 壽勇
	教授	六鹿 茂夫
	准教授	奥園 秀樹
経営情報学部 経営情報イノベーション研究科	教授	尹 大栄
看護学部 看護学研究所	教授	富安 眞理
短期大学部	講師	山本 学

※職位は受賞時のものです。

## 教員人事

### ◆採用

平成29年9月1日付

坂本 多穂	薬学部薬学科	講師
-------	--------	----

平成29年10月1日付

根岸 まゆみ	看護学部看護学科	講師
--------	----------	----

### ●特任教員

寺尾 知可史	薬学部	特任教授
--------	-----	------

平成29年12月1日付

下條 尚志	大学院国際関係学研究所	助教
-------	-------------	----

### ◆退職

平成29年9月30日付

西田 在賢	経営情報学部経営情報学科	教授
-------	--------------	----

佐野 文美	食品栄養科学部栄養生命科学科	助教
-------	----------------	----

平成29年10月31日付

眞塩 麻彩実	食品栄養科学部環境生命科学科	助教
--------	----------------	----

平成29年12月31日付

関川 貴寛	食品栄養科学部環境生命科学科	助教
-------	----------------	----

### ◆昇任

平成29年9月1日付

水野 初	薬学部薬学科	講師
------	--------	----

平成29年10月1日付

増田 修一	食品栄養科学部食品生命科学科	教授
-------	----------------	----

谷 幸則	食品栄養科学部環境生命科学科	教授
------	----------------	----

澤田 敬人	国際関係学部国際言語文化学科	教授
-------	----------------	----

坂巻 静佳	国際関係学部国際関係学科	准教授
-------	--------------	-----

岸 昭雄	経営情報学部経営情報学科	准教授
------	--------------	-----

天野 ゆかり	短期大学部社会福祉学科	講師
--------	-------------	----

平成29年11月1日付

佐藤 道大	薬学部薬学科	講師
-------	--------	----

静岡県立大学おぞら基金に  
寄附して下さった皆様 (平成29年10月から12月)

●鬼頭 宏様 ●小林みどり様 ●匿名希望5名

## はばたき

●次号137号は2018年7月発行の予定です。

136号 2018年2月15日発行  
発行元 / 静岡県立大学広報委員会

- 静岡県立大学広報企画室
- 〒422-8526 静岡県静岡市駿河区谷田52-1
- TEL / 054-264-5130 ■FAX / 054-264-5099
- E-mail / koho@u-shizuoka-ken.ac.jp
- URL http://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/



### ご意見・情報をお寄せください。

記事に関するご意見・ご感想、今後取り上げてほしいテーマなど、ご要望をお待ちしています。また、本学の学生、教職員の教育・研究活動のほか、ご卒業生などに関連する情報もお寄せください。今後の企画の参考にさせていただきます。

# 公認 古庄自動車学校

「はばたき」読者限定!

## 県大生応援キャンペーン!!

〈お申込時にこの冊子をご持参下さい〉

2018年 3/17(土)~6/30(土)までのご入校で  
**東京近郊** テーマパークパスポートが  
**人気** ペアでもらえる!

※普通自動車で入校の方が対象です  
 ※限定解除の方は対象外とさせていただきます  
 ※他の割引との併用不可

基本料金 普通車(免なし・原付所持)

292,680円(税込)

AT  
免なし

**271,000円** (税抜)



305,640円(税込)

MT  
免なし

**283,000円** (税抜)

※仮免試験手数料2,800円(非課税)が別途必要です

古庄は  
特典がいっぱい!

夜間料金無料

技能オーバー無制限保証

再検定料一切不要

優先予約で短期取得可

免許は取ったけどしばらく  
乗ってないから運転が不安で...

卒業生特典  
ペーパードライバー講習  
1時間無料

※普通車のみ・2・3・8月を除く

【基本料金にふくまれるもの】入所料、教科書代、適性検査料、規定学科教習料、規定技能教習料、効果測定料、修了検定料、卒業検定料、高速道路通行料、写真代、卒業証明書交付料に係るすべての金額及び消費税※古庄自動車学校では基本的には高速教習を実車走行で実施。【別途料金の案内】[予約キャンセル料]本体価格1時間あたり1,000円(8%税込価格1,080円)平成30年4月1日より2,000円(税込2,160円)技能検定当日キャンセル料2,000円(税込2,160円)をいただきます。※当日分の予約をキャンセルする場合[自己都合自由教習]本体価格1時間あたり4,000円(8%税込価格4,320円)【途中解約の場合】お客様の都合により退校する場合は、同校の規定により未受講学科教習料、未受講技能教習料、未受講検定料などは返金されます。  
 ※古庄自動車学校の個人情報の取り扱いについてはホームページ内の個人情報保護ポリシーを参照。

お申込みはフリーダイヤル **0120-155-168** | 携帯からもOK

入校手続き お申込み

- [入校日] 火曜日(17:00) 木曜日(15:00) 土曜日(9:00) 日曜日(13:00)  
3時間はとかがります(視力検査、適性検査、顔証明、学科教習)
- [持ち物] 筆記用具、本籍記載の住民票(免許証のある方は住民票不要)、身分証(健康保険証、パスポート)、眼鏡等
- [視力等] 片眼0.3以上、両眼で0.7以上 信号機の色が識別できる方  
身体に障害のある方は事前に中部運転免許センター(054-272-2221)の運転適性相談窓口にて適性相談をお受けください。



### 公認 古庄自動車学校

〒420-0812 静岡県静岡市葵区古庄3丁目11番15号  
 TEL.054-261-1551  
 FAX.054-264-0940  
<http://www.flushyuu.co.jp>  
[main@flushyuu.co.jp](mailto:main@flushyuu.co.jp)

